

<Bコース>

【参加者】 C L 加地幹夫、S L 河野 順、S L 佐野知里、小林幸子、大石 巖
杉山定弘、佐々木隆、平田秀子、小川伸子、中尾勝行、三輪広明、小泉洋三、
川口晴代 計 13 名

【コースタイム】

ホテル花神楽 6:00 — 旭岳ロープウェイ = 姿見駅 6:52/7:10 …… 姿見池 7:30/
7:33 …… 6 合目(休) 8:00/8:10 …… 7 合目 8:25 …… 8 合目 8:45/8:50 ……
9 合目 (2190m) 9:12/9:15 …… 旭岳頂上(写真・弁当) 9:40/10:10 …… 雪渓を下
り(休) 11:00/11:05 …… 荒井岳分岐 11:27 …… 間宮岳 2285m 11:35 …… 中岳分岐
11:55/12:05 …… 中岳温泉(休・弁当) 12:43/12:55 …… 裾合分岐 1690m 13:45 ……
木陰(休・弁当) 14:00/14:10 …… 第三展望台(夫婦池) 15:20 …… 姿見駅 15:30/
15:45 = 旭岳駅ロープウェイ 15:55/16:10 — ホテル花神楽 17:00

【感想】

目が覚めると明るくなっておりやがて緑の樹林の中に陽が差し込んでくる。

朝食、昼食の弁当が配られ、慌ただしく朝食を食べ終え、本館前で待っているバスに乗り込む。北海道らしい田園風景を楽しみながらバスは大雪山旭岳の麓へと向かって行く。

旭岳駅ロープウェイに到着。100人乗りのロープウェイは、多くの登山者を載せて滑るように高度を上げて行く。姿見駅玄関テラスに立つと正面に白い雪渓、緑の裾野の奥に黒々とした旭岳の雄姿がそびえ立っている。沢筋には活火山の噴気ガスが噴き出している。もう森林限界に近い、ナナカマドやハイマツ等僅かな灌木が茂っている。右回りの緩やかな登山道の脇にチングルマを見つけ、まもなく展望台となっている姿見の池の前に出る。池は雪に覆われ旭岳の雄姿を映し出すことはできない。旭岳へはさらに近づき迫力を増す。稜線に登山道は付けられ傾斜も段々増していく。体が揺り動かされる程の強風が吹いているが、身体が冷やされ好都合でもある。大小の石が転がり火山礫のガレ場、ザレ場をジグザグに急登する。6合目から7合目と高度が上がるにつれ視界も広くなる。周りを見渡せば快晴で北海道の2000m級の山並みがどこまでも広がり、トムラウシや十勝岳等名だたる山々も並ぶ。見上げると金庫岩が大きくなっている。9合目も過ぎニセ金庫岩の前に出ると傾斜も多少緩くなり、さらに金庫岩を過ぎるともう近い、目標の北海道の最高峰旭岳登頂の瞬間を迎える。広がる裾野、北海道の屋根と言われる連なる山容、絶景を満喫。山頂の広い斜面に這うように白い花が広がり、目に飛び込んでくるのはキバナシャクナゲの群生である。

周回コースに向かい下山開始、ガレ場の急坂下ると雪渓が広がっている。正面の後旭岳の稜線に向かわず、左の沢の雪渓の中へ下り、熊ヶ岳の噴火口を目指す。雪渓が切れるとチングルマの群生が広がり、振り向くと旭岳の雄姿が望める。

北海岳分岐から平らに広がる稜線上に標柱1本立ち、間富岳頂上の標識である。キバナシャクナゲはじめとする広大なお花畑が広がる。北鎮岳の雄姿を見ながら稜線を下って行くとコルに達する。中岳分岐から尾根道を下り出す。間宮岳や熊ヶ岳等の大雪山系から発する沢筋の一部に、奇岩の岩壁を作り出している。遠く裾野に広がる湿原は雪渓が残っている。段々奇岩に近づいて行くと硫黄の匂いがしてくる。沢で多くの人たちが屯している

のが見える。沢の中に足を浸けている。中岳温泉で足湯をして身体を休めていた。さらに下って行くと、雪渓をいっぱい残した湿原、裾合平に入って行く。旭岳の裾野を横断するように延々と歩く。

ようやくはるか遠くに姿見駅の建物と電波塔が見えてくる。雪に覆われた夫婦池に達すると姿見駅はもう近い。姿見駅のテラスからAコースのメンバーが温かく迎えてくれた。ホツとするのも束の間、次のロープウェイで旭岳麓駅に下りて行った。そして、バスに乗り込みコテージへ。入浴後夕食会場に向かう。次にコテージで交流会と予定をこなす。



① 姿見駅



② 姿見ノ池



③ 地獄谷に沿って山頂を目指す



④ 金庫岩



⑤ 山頂が近づく



⑥ 旭岳山頂



⑦ 旭岳山頂にて



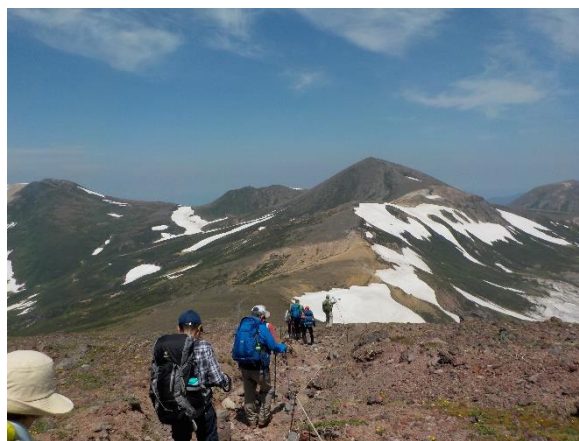
⑧ 北鎮岳方面を望む



⑨ 旭岳東斜面の雪渓



⑩ 間宮岳



⑪ 中岳分岐へ向かって



⑫ 中岳温泉



⑬ 裾合平

